第4回大幡作業部会議事録

開催日時：令和8年10月16日　14時～15時30分
開催場所：大幡コミュニティセンター　集会室

参加者数

グループ	A	B
人数	4名	3名

- ①第3回作業部会で「取り組むべきとされたタイトル」と「残すべきとされた第4次活動計画の実践目標」の関連付けについて

  第3回作業部会で「取り組むべきとされたタイトル」が列記された模造紙と「残すべきとされた第4次活動計画の実践目標」の紙を用意。それぞれ関連があると思われるものを関連付けた。

- ②①の列記されたタイトルの中から4つ選抜

  第1回作業部会で出された「地域にいる人達」や「地域の強み」を列記した資料を参照しながら、そういったものを活かしながら自分たちで取り組めるもので今後5年間、取り組んだ方が良いものをグループで4つ選抜。

  それぞれのグループでどれを選択したか情報共有を行った。

- 選抜されたものについて、具体的にどのような取り組みを行うか

  ②で各グループが選択したものを取り組む際に、実際、どのように取り組んでいくかをグループ毎に検討した。

出された意見

タイトル	内容	吹き出し
高齢者がつながる場所	週一体操とサロンを充実させる	行政にお願いする事もあり（助成金など）
	公民館に集まれる行事（週一体操、サロン）	
	（買い物の）ついでに寄れるような場所	
子どもが安全に生活できる	下校時の見守りのパトロールをする	見守りもしにくい（不審者と間違われる）

	子どもたちと交流する、子どもを知る	親のつながり、LINE、SNSなど
	登下校時、交通安全・見守り	子どもが習い事で忙しくなってきた
		子どもへの虐待
困った時に相談できる	包括支援センターの周知	具体的に周知の仕方
	困った時に相談できる場所	
	民生委員の周知をする	
	相談しやすい関係性、信頼関係	
	孤立させない地域で訪問・見守り	望んで孤立している人もいる
	困った時の対応について情報発信する	社会と地域が協調できない
	住民によるパトロール、安心してもらう	
地域活性化	常日頃のふれあい方、お互いを認め合う	老人会の加入に苦慮
	周知の必要性	いい距離感の付き合い方
	興味のある事にふれ合える機会を作る	ドローン講習会
防災	危機管理を持ってもらう（全世代に周知）	地区で同じ条件では、防災士も少ないのでは
		周知の仕方の工夫（回覧板以外でのやり方）
	若者が集まり、楽しく活動できるようにする	

	体験型防災訓練	興味を持てる内容を考える、住民の把握ができる
		親子でも参加してもらう、高齢者や障がい者が
		参加しやすい
	火災予防についても考えていく	防災意識を高めるためには、どうする？